

平成29年度・生徒の学力に関する調査についての結果と分析

1. 平成29年度

「全国学力・学習状況調査」(第3学年対象) 結果(正答率) 4/18(火)

	A 主として知識			B 主として活用		
	貫井中	東京都	全国	貫井中	東京都	全国
国語	77.0%	79.0%	77.4%	71.0%	74.0%	72.2%
数学	61.0%	66.0%	64.6%	47.0%	50.0%	48.1%

2. 平成29年度

「練馬区立中学校学力調査」(第3学年対象) 結果(正答率) 6/1(水)

	貫井中	練馬区	全国
社会	48.1%	52.1%	55.4%
理科	52.3%	55.3%	59.8%
英語	64.2%	73.0%	67.4%

3. 平成29年度・各学力調査についての分析

	教科名	分析（身につけている力・課題等）	改善策・取り組み
3年 全国	国語	<ul style="list-style-type: none"> 授業への意欲・関心・態度は、多くの生徒が前向きにしっかりと取り組んでいて良好といえる。 全体的に書く能力と読み取る能力が、東京都の平均に比べ劣っている。 話す・聞く能力は、東京都の平均よりわずかだが、優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も生徒たちの意欲・関心をそそるような教材資料の工夫をしていく。 書く能力・読む能力が劣っているので、主張文や意見文・創作文・感想文を取り入れていく。 言語の知識・理解についても、小テストなどを実施し、反復練習を取り入れていく。
	数学	<p>どのクラスにおいても、多くの生徒が真剣に授業に取り組んでおり、たいへん良い。しかし、家庭での学習習慣が定着せず、十分ではない生徒が多い。基礎的な知識や技能の定着に課題がある。数学の必要性を感じていない生徒がいる。</p>	<p>丁寧な指導を行う。 興味関心を喚起させるような教材提示を心がける。 前時の振り返りに、より多くの時間を使い、家庭での復習の重要性を繰り返し伝える。 質問をしやすい雰囲気作りを行う。</p>
3年 練馬区	理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象に対する関心は高いが、それらを科学的に実証したり分析したりする思考力に課題がある。 観点ごとの正答率の偏りは感じられなかったが、解答形式が記述による場合に大きく目標値を下回る値であった。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を多く取り入れ、協働的な学習の中で自らの考えを他者に伝えることで、断片的な知識を結びつけられようにする。 技能の習得の確認や、結果についての考察において、他者の知にふれることをきっかけに、自らの判断を科学的に振り返ることができるようにする。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する意欲・関心・態度が積極的であり、活発な姿勢である。今回の結果によると、基礎力に比べて活用力に課題が見られた。 基礎的な知識・理解を生かして、資料活用 of 技能の定着、自分で記述する表現力の定着が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に問題意識をもつよう、教材に工夫を凝らした導入に心がける。生徒が主体的に問題意識をもつよう心がける。 授業では教科書や資料集で調べる訓練をし、他者との意見交換をすることで、思考・判断・表現力を磨き合う。最終的には自分の言葉でまとめる訓練を進める。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> 読解力は概ね平均値に達している。 英語を書いて表現しようとする姿勢は見られる。 正確な語彙力と文法力が平均値に達していない。 リスニングは最後までしっかりと聞き取らず初めの段階で回答してしまい間違いにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 英問英答で単語のみの回答ではなく、英文として回答する力を身に付けさせる。 リスニングでは最後まで聞き取る習慣を身に付けさせる。 正確な英語の発音を身に付けさせ、リーディングを繰り返し大まかに長文の理解ができるようにさせる。